

## 介護福祉士として道は拓かれるか

—秋田県における介護職員採用に関するアンケート調査の分析—

立山 正子<sup>1)</sup> 志摩 麗子<sup>2)</sup>

### The Research and Analysis of the Employment Situation for Social Welfare Care Workers in Akita

Seiko TATEYAMA Reiko SHIMA

#### 要旨：

- I 状況：本学の介護福祉学科は、秋田県における高齢者対策事業の一貫でもある。平成3年度現場職員の介護福祉士国家試験合格者数が77名であったものが、5年後の平成8年度は204名（計画の3.4倍）と予想を越えた合格者数で充足されている。一方、募集方法は地元優先、随時募集方法がとられており、学校卒の介護福祉士には厳しい状況にある。
- II 目的：就職口開拓のため、介護職員採用に関するアンケート調査を実施、就職指導に役立てる。
- III 結果：平成10年度は、老人福祉施設の新設等により、大幅な採用予定数が見込まれている。施設における介護職員の採用は有資格者の介護福祉士の採用に変わってきている。募集方法は、公募性、地元優先の傾向にあるが、地元居住、通勤可能などの幅が見られた。
- IV 結論：平成10年度は、老人福祉施設の新設等により、大幅な採用人員が見込まれ、学校卒の介護福祉士の就職は期待できるが、それ以降は期待できない。

キーワード：介護福祉士、介護職員の採用状況

#### Summary：

- I. The needed personnel will be kept in the social welfare agencies of Akita, because the successful candidates in the national examination for satisfied care worker has been increasing year by year.
- II. The Japanese Red Cross College of Akita has been established for Akita prefecture, but it'll be difficult for the graduates here to work as the satisfied care worker in Akita, because there will not be enough agencies of Akita for them.
- III. This year, 1998, many welfare institutions for the aged are to be built, so a lot of our graduates will be able to be employed, but the prospect of the employment situation for our graduates will not be so blight in the future.
- IV. We must investigate the new counter plan for our students to seek employment according to the new situation of Akita.

Key words : Social welfare care worker

the Estimate of the present employment situation of social welfare care worker

- |   |  |
|---|--|
| I はじめに<br>秋田県における介護福祉士需給見通しのうち、<br>国家試験合格者については、平成3年度35名の計<br>画に対して77名の合格で計画の倍であり、5年後 | の平成8年度は、60名に対して204名の合格者<br>数で3.4倍に達し現場職合格者が急増している現<br>状である。 <sup>1)</sup><br>現在、介護職員は必ずしも有資格者の介護福祉 |
|---|--|

介護福祉学科 1) 教授 2) 助教授

士でなくともよく、採用は口コミ募集、地元優先、実習生の中からとる、1人退職すると1人採用という随時募集で、公募はしないという情報であった。

第1期生の進路希望については、昨年度、立山らが調査した日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科新入生の意向調査〔第1報〕<sup>2)</sup>の中で「今考えている将来の希望抱負」について、「介護・介護福祉士として貢献したい。」と多くの学生が考えていた。

本調査は、こうした状況をふまえ、進路指導に生かすために介護職員の採用及び募集に関する情報収集を行った結果、貴重な手がかりを得ることができたので、報告する。

## II 調査方法

- 1 目的 介護職員の採用・募集に関する情報収集
- 2 方法 質問紙（別紙資料）郵送法
- 3 対象 秋田県内社会福祉関係機関、施設（392施設）
- 4 期間 発送 平成9年6月11日  
回収締切 平成9年7月18日
- 5 回収率 74.2%（291施設）
- 6 内容 1) 介護職員採用見通し  
（有・無、採用年次、採用人員）  
2) 採用条件  
（有・無、関連資格、特殊能

力、出身地)

## 3) 募集方法等

## III 調査結果

### 1. 回答施設の状況及び介護職員採用予定について

#### (1) 回答施設の状況

回答施設（表1）は全部で291施設のうち、介護職員採用見通しがある施設（以下「ある施設」という）が68施設（23.9%）、介護職員採用見通しが無い施設（以下「ない施設」という）が216施設（76.1%）であった。

#### (2) 介護職員採用予定人員について（表1参照）

介護職員採用予定人員は、平成10年度149～150名と際立って多く、平成11年度、9年度の順ではほぼ同数であった。平成10年度採用予定人員が多い理由としては市町村、社会福祉協議会、社会福祉法人、特別養護老人ホーム、老人保健施設に新設又は新設見込（認可次第）がみられ、デイ・サービスセンター等、老人保健施設に増員がみられたことである。多かった平成10年度の採用予定人員は、市町村41名、老人保健施設33～34名、社会福祉協議会27名、社会福祉法人22名、特別養護老人ホーム・デイ・サービスセンター等各13名であった。

平成9年度は参考人員となり、平成11年度はこれから先の採用予定見通しとして参考と

表1 回答施設及び介護職員採用状況

機 関・施 設	回 答 施設数	介 護 職 員 採 用 見 通 し		採 用 予 定 人 員			
		ある (施設数)	ない (施設数)	平成9年度	平成10年度	平成11年度	
市 町 村	28	3	25	11	41		
社会福祉協議会	53	14	39		27	10	
社会福祉法人	16	7	9	2	22	2	
老人福祉施設	特別養護老人ホーム	56	12	44	13	13	25
	養護老人ホーム	16	2	14			
	軽費老人ホーム デイ・サービスセンター等	48	10	38	2	13	6
老人保健施設	31	19	12	21～24	33～34	10～11	
心身障害者(児)福祉施設	36	1	35				
不 明	7						
合 計	291	68 (23.9%)	216 (76.1%)	49～52	149～150	53～54	

なる。

2. 介護職員の採用条件について

(1) 関連資格について (表2 参照)

介護職員を採用する場合、特に条件を設けている否か、関連資格4つを示し、回答を求めたところ、「ある施設」、「ない施設」ともほぼ共通しており、介護福祉士、運転免許の順に多く、社会福祉士、社会福祉主事は少数にとどまった。介護福祉士が多く社会福祉士、社会福祉主事が少なかったのは、現場の実動数に比例するものと考えられる。

(2) 特殊能力について (表3 参照)

介護職員として特殊能力の要望があるか否かについては、関連8領域をあげ回答を求めたところ、全体として非常に少ない選択であった。そのうち、両者ともに高かったのはレクリエーションであった。

ついで、「ある施設」ではリハビリテーション、コンピューター、調理・家政、他であり、「ない施設」では音楽、家政・リハビリテーション、他の順であった。

この特殊能力については当短大では大いに必要と認識していたが、回答数は少なかった。

表2 介護職員採用条件－関連資格

採用見通し「ある」の68施設					機関・施設	採用見通し「ない」の223施設				
他	社会福祉主事	社会福祉士	運転免許	介護福祉士		介護福祉士	運転免許	社会福祉主事	社会福祉士	他
				1	市町村		1			
ヘルパー資格 ヘルパー2,3級 看護婦資格	3	3	10	8	社会福祉協議会	5	6	1		ヘルパー修了者
	1	1	3	5	社会福祉法人	4	2		1	資格優先
	1	1	3	7	特別養護老人ホーム	11	6	1	1	ヘルパー3級 看護婦
	1		1	1	養護老人ホーム					
	2	3	7	8	デイサービスセンター等	8	7	3		老人福祉に熱意をもっている人・ヘルパー3級・生活指導員・看護婦(士)保健婦
		1	2	9	老人保健施設	2	1			ヘルパー 年齢制限
		1	1	1	心身障害者(児)施設		1	1		
	8	10	27	40	合計	30	24	6	2	

(3) 出身地について (表4 参照)

採用条件の出身地の関係では、両者とも地元が圧倒的に高く、ついで地域、県内の順であった。利用者が地域住民であり、諸事情が全部重なり、行政区画と地域づくり(エリア)が重なっていることは極く自然のことである。

ており、特に多かったのは「市町村・会の広報に掲載」、「公募する」であった。募集に当たってはまず公募し、人材が得られない場合職業紹介所・人材センターに依頼する一つの採用手順が示され、公募の手がかりを得ることができた。

福祉関係の学校に依頼が低かったのは、長い間、養成施設がなかったためと理解する。

3. 介護職員の募集について

(1) 募集方法 (表5 参照)

介護職員の募集方法は両者ともほぼ共通し

表3 介護職員採用条件—特殊能力

採用見通し「ある」の68施設									採用見通し「ない」の223施設									
他	マッサージ	音楽	芸能	家政	調理	コンピュータ	ワープロ	ワープロ	機関・施設	ワープロ	音楽	家政	ワープロ	調理	コンピュータ	マッサージ	芸能	他
										市 町 村								
				1	2		1	1	社会福祉協議会			1		1	1			
				1		1	1	2	社会福祉法人	1	1		1					
			1		1		2	2	特別養護老人ホーム	6	2	2	2					
				1		1		1	養護老人ホーム									
		1	2	1	1	3	3	4	デイサービスセンター等	5	3	1	1	2		1		
						1	2	2	老人保健施設									
									心身障害者(児)施設									
		1	3	4	4	6	9	12	合 計	12	6	4	4	3	1	1		

表4 介護職員採用条件—出身地

採用見通し「ある」の68施設				機関・施設	採用見通し「ない」の223施設			
他	県内	地域	地元		地元	地域	県内	他
				市 町 村	1			
		2	11	社会福祉協議会	6	1		
	2		3	社会福祉法人	1	2	1	1 (施設実習)
	1	1	6	特別養護老人ホーム	13	6	2	1 (年齢制限)
		1	1	養護老人ホーム				
		1	8	デイサービスセンター等	9	4	1	1 (地元居住)
	4	1	3	老人保健施設	1			
		1		心身障害者(児)施設	2			1 (通勤可能) 1 (年齢制限)
	7	7	32	合 計	33	13	4	5

表5

介護職員の募集—募集方法

採用見通し「ある」の68施設								採用見通し「ない」の223施設								
他	口コミにより募集	マスコミに依頼	福祉関係の学校に依頼	福祉保健人材センターに依頼	職業安定所に依頼	公募する	市町村会の広報に掲載	機関・施設	市町村会の広報に掲載	公募する	職業安定所に依頼	福祉保健人材センターに依頼	福祉関係の学校に依頼	口コミにより募集	マスコミに依頼	他
1		1	1	1	1	3	3	市 町 村	4	3						
	1			3	1	7	11	社会福祉協議会	12	6		2		1		1 (縁故) 1 (有線放送) 1 (町内チラシ)
		1	4	4	3	1	2	社会福祉法人	3	1	4	1	3	2	1	
1 (実習生で優秀な人に案内する)			2	4	1	4	6	特別養護老人ホーム	19	14	3	3	6	5	1	1
			1	2	1	1	1	養護老人ホーム	4	1	2	2	1			1 (他) 1 (市職員採用試験) 1 (管理職の裁量)
			1	4		6	8	デイ・サービスセンター等	19	11	3	7	6	5	1	2 (他) 1 (有線放送) 1 (公募しない)
	2	1	7		14	7	2	老人保健施設	4	2	4	1	1			
		1			1	1	1	心身障害者(児)施設	9	9	4	3	1	2		1 (実習生の中から)
2	3	4	16	18	22	30	34	合 計	74	47	20	19	18	15	3	12

## (2) 募集要項送付の有無 (表6参照)

実際、介護職員を募集すると決定した場合、募集要項を当短大に送っていただけるか否かについては、両者大きく分れ、「ある施設」では「送る」が高く、ついで「どちらともいえない」、「送ることができない」であった。「ない施設」では「どちらともいえない」が際立って高く、次いで「送る」、「送ることができない」が多かった。これは、前述の出身地（地元採用）、募集方法とも深く関係しており、地域の範囲で実施してきた従来のやり方が反映されているものと考えられる。

## 4. 秋田県における介護福祉士等の養成について (表7参照)

秋田県における介護福祉士等の養成状況については、平成7年度までは1校40名だったものが、平成8年度2短大90名増、平成9年度3年制40名増で、入学定員は計170名となった。平成10年3月には130名の卒業が予定

されている。

他に高等学校においては、平成6年度から始まった第3の学科〔総合学科〕再編成により、いわゆる福祉系8コースが開設されている。当コースの卒業生は大学等の多様化にのり進学率も高まると思われるが、社会福祉施設への就職希望予備群の増加として存在することとなる。

## IV 考察

始めてのところへおそるおそる入っていく感じで実施したアンケート調査に対してこちらが驚くほどの反応が示された。

まず第1は温かかったこと。「採用できないが健闘してください。」に類する励ましを添えての回答に感動させられた。第2に思いがけず多くの回答が寄せられ、その中身は簡潔であったが誠意を感じるものが多かった。第3にはこのアンケート調査が機関・施設とのコミュニケーションとなり、日本赤十字秋田短期大学の存在、介護福祉士

表6 介護職員の募集—募集要項送付の有無

採用見通し「ある」の68施設				機関・施設	採用見通し「ない」の223施設			
他	送 り な い	ど ち ら も い え ない	送 る		ど ち ら も い え ない	送 る	送 り な い	他
・秋田県で一 括採用して いるため		1	2	市 町 村	9	3	1	1 (問い合わせ に応じて送付 すること有)
	1	6	6	社会福祉協議会	17	11	1	
・各施設に委 託している ため			6	社会福祉法人	4	5		
				特別養護老人ホーム	17	18	6	
		1	1	養護老人ホーム	6	3		
		2	8	デイ・サービスセンター等	17	13	3	
		2	14	老人保健施設	4	5		
	1			心身障害者(児)施設	18	8	1	
	2	12	37	合 計	92	66	12	1

表7 秋田県における介護福祉士等養成状況

養 成 校		開 設 年 月	卒 業 年 月	入 学 定 員	卒業者(予定)数 (平成10年3月現在)
日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科(2年制)		平成8年4月	平成10年3月	50名	50名
秋田桂城短期大学 人間福祉学科(2年制)		平成8年4月	平成10年3月	40名	40名
秋田福祉	介護福祉学科 (2年制)	平成2年4月	平成4年3月	40名	40名
専門学校	福祉専門学科 (3年制)	平成9年4月	平成12年3月	40名	—
3校	4学科	—	—	170名	130名

[注] 県内高等学校における福祉系コース開設状況(平成9年4月現在)

- ① 県立大館桂高等学校 普通科 家庭福祉コース
- ② 県立由利高等学校 生活科学科 福祉系
- ③ 県立西仙北高等学校 普通科 生活福祉コース
- ④ 県立増田高等学校 総合学科 生活・福祉科目選択
- ⑤ 県立西目高等学校 総合学科 生活・福祉系列
- ⑥ 県立湯沢北高等学校 生活科学科 福祉コース
- ⑦ 県立雄勝高等学校 普通科 福祉コース
- ⑧ 公立合川高等学校 介護福祉科

の教育を実施していることを啓蒙するきっかけとなり二次的効果となった。

採用予定人員については、さいわい平成10年度は新設が見込まれ、思いの外求人数が多かったが、これがピークとみられる。今後の見通しは秋田県における高齢対策の施設設置計画はほぼ予定通り進捗しており、目標は達成されつつあるという。これからは退職の欠員補充の範囲となる可能性があり、就職は一層厳しく推移すると考えられる。

介護職員採用条件の関連資格においては、両者とも介護福祉士が高く、ついで運転免許であり、有資格者を採用する傾向に変わってきたものと考えられる。

短大として重視した特殊能力については、施設側からの反応が極めて鈍かったことは、介護現場の手不足の解消を優先しなければならない現場事情があるものと考えられる。

個別介護、個人の尊厳、その人らしい生活の確保という本質にかかわる課題については、現状でできる範囲の努力がはらわれている実情である。利用者は入所しただけでも傷つき苦痛をとまなっている。自分が入所したい施設づくりを目標に特殊能力を必要とする介護の現場づくりを強調したい。

本調査において、特に注目したかったのは地元優先採用のことであった。結果はやはり情報どおりであった。しかし、これから先のことを考えると開かれた地域対策として地元以外の新卒介護職員に採用の道を開くことが、将来的には地域の活性化の一つとして結び付くものと考えられる。

介護職員募集方法については、口コミ情報として公募制は期待できないということもあったが、市町村・会の広報に掲載、公募するが圧倒的に高く、公募制がとられていることが判明し、応募に希望をつなぐことができた。

一方、1人退職すると1人補充するという、随時募集が見られたことは、(福)秋田県社会福祉協議会(秋田県福祉保健人材センター)による結果<sup>3)</sup>と同様であった。一般的に、欠員は臨時等で補い、4月新卒を受け入れる定期募集となるのではないかと考えるが、そのようにできない介護の現場事情が察せられる。

## V 結論

1. 平成10年度は新設等により採用予定数は大幅増として見込まれているが、これがピークで、次

年度からは社会福祉施設の設置計画も大づめを迎えているので、今後は大幅な需要は期待できない。

2. 一方、大幅な介護福祉士増員計画は走り出して間もないが、需要見込からすると有資格者だけみても供給過剰になる。

3. 介護職員の採用については、介護福祉士有資格者を採用する方向に変わってきている。

4. 介護福祉士の付価値と考える特殊能力については、今のところ施設側の反応は極めて鈍い。

5. 介護職員募集については、一般に地元優先公募制がとられているが、地元居住、通勤可能などの幅をもっていた。

## 謝辞

本調査に対してご協力くださいました社会福祉施設長、担当職員の方々に厚くお礼申し上げます。

## 引用文献

- 1) (福)秋田県社会福祉協議会 “共に生きる” 安心秋田のまちづくり地域福祉活動計画書  
平成8年7月 P45
- 2) 立山正子他 日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科新生の意向調査〔第1報〕日本赤十字秋田短期大学紀要 第1号 平成9年3月 P38、39
- 3) (福)秋田県社会福祉協議会 秋田県福祉保健人材センター 民間社会福祉施設市町村社会福祉協議会における人材確保調査報告書 平成9年3月 P6

## 参考文献

1. (福)秋田県社会福祉協議会 秋田県福祉保健人材センター社会福祉施設・市町村社会福祉協議会における職員採用、退職状況調査報告書(平成6年度・7年度)
2. 秋田県福祉保健部高齢福祉課 高齢福祉課の業務概要
3. 秋田県福祉保健部高齢福祉課 福祉施設における介護福祉士需要見通し 平成4年4月
4. 厚生省 社会福祉施設調査 平成9年10月

## 介護職員採用に関するアンケート

施設名 ( )

1. これから、介護職員を採用する見通しはありますか。(いずれかに○印)

1. ある                      2. ない

2. 「1. ある」に○印された場合、下記の ( ) 内にお答え下さい。

イ 採用年次	平成9年度	平成10年度	平成11年度
及び人員	↓	↓	↓
	約 ( ) 名	約 ( ) 名	約 ( ) 名

3. 介護職員採用に当たって特に条件を設けております。(いずれかに○印)

1. ある                      2. ない

4. 「1. いる」に○印された場合、下記より選び該当するものに○印をつけて下さい。

- イ. 関連資格    1. 介護福祉士    2. 社会福祉士    3. 社会福祉主事  
4. 運転免許    5. 他 ( )
- ロ 特殊能力    1. レクリエーション    2. 音楽    3. 家政    4. 調理  
5. コンピューター    6. リハビリテーション  
7. マッサージ    8. 芸能    9. 他 ( )
- ハ 出身地関係    1. 地元    2. 地域    3. 県内    4. 他 ( )
- ニ その他 ( )

5. 介護職員を募集する場合どのような方法をとっておりますか下記より選び該当するものに○印をつけて下さい。

1. 公募する  
2. 市町村、会の広報に掲載  
3. 職業安定所に依頼  
4. 秋田県福祉保健人材センターに依頼  
5. 福祉関係の学校に依頼  
6. マスコミに依頼  
7. 口コミにより募集  
8. 他 ( )

6. 今後、介護職員を募集することがあれば募集要項を当短大にも送っていただけますか。

1. 送る              2. 送ることができない              3. どちらともいえない

ご協力ありがとうございました。

平成9年6月 日    担当者 日本赤十字秋田短期大学  
介護福祉学科    立山 正子  
TEL 0188-29-3000    FAX 0188-29-3030